

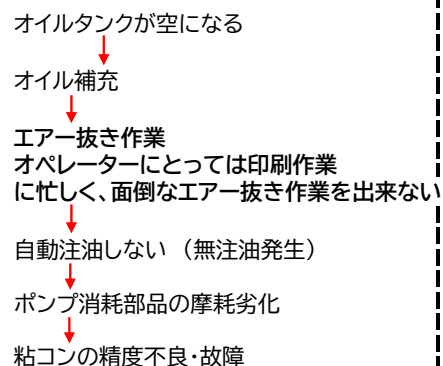
自吸式注油装置とは？（従来の粘度コントローラーの自動注油装置は、一旦オイルが空になると、自吸式でない為エア抜き作業をしないと注油しません）

Viscon は ”エア抜き作業不要”の注油システムを開発しました（特許第6363571号）

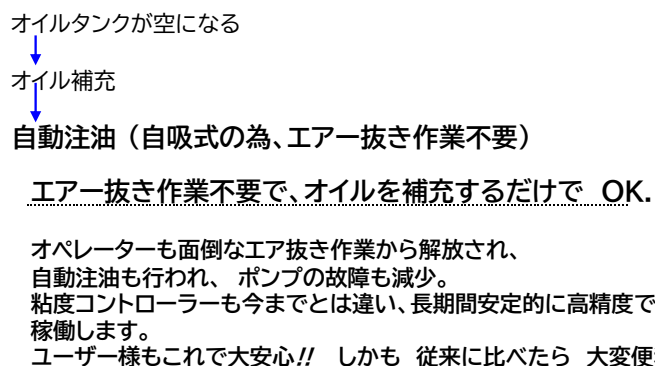
従来の粘度コントローラー



従来の粘度コントローラーに貼ってある注意ラベル



Viscon 粘度コントローラー



無注油で摩耗劣化した粘コンのポンプ部品



- 1 無注油が粘度コントローラーの精度不良・故障を招きます
エア駆動ダイヤフラムポンプが粘コンのセンサーの役割も担っています。このダイヤフラムポンプは、無注油状態が3か月続くと、無注油が原因でポンプ内の摺動部品が摩耗劣化し、粘コンの精度を著しく低下させます
- 2 面倒で時間が掛かる”エア抜き作業”は、印刷作業で忙しいオペレーターにとっては、全く異質の作業です。つい ”オイルの補充” だけで済ませがちです。（特に、海外の顧客オペレーターは、100% ”オイルの補充” だけでした。- 即ち、100% 無注油状態発生でした。- 弊社海外顧客・代理店からのリサーチによるデータ）
- 3 粘度コントローラーのダイヤフラムポンプの脈動摺動回数は 1年間で 約 2,000万回、3年で 約6,000万回、5年で約1億回です。（1日 8時間稼働、1か月23日で計算）過去の実績からすると、3か月間無注油が続くと、ポンプは停止します。これだけ過酷に作動するダイヤフラムポンプにとって、注油状態は最重要事項です。完全に安定的な注油が粘度コントローラーの正常稼働を実現します。

ダイヤフラムポンプ脈動摺動回数

1時間	9,000
1日 8時間	72,000
1か月 23日	1,656,000
1年	19,872,000
3年	59,616,000
5年	99,360,000

Viscon Japan (株) 公式ブログ ” たかが粘コン、されど粘度コントローラー ” [ハ](#)